行政・獣医事

動物用医薬品副作用症例報告
（平成17年12月分）

薬事法第77条4の2に基づく動物用医薬品副作用症例報告を次のとおり掲載する．

医薬品の名称（製造（輸入）業者名）	副作用発現動物							副作用等発現の概要及び転帰						
	種類	性	年齢等	投与前の健康状態・疾患等	関連医薬品の投与歴等	既往歴	副作用歴	投与量・投与法	投与年月日	併用薬	副作用発現年月日（投与後時間）	副作用等の種類	講じた処置	転帰
ノビバックDHPPi（ジステンパー・犬アデノウイルス（2型），犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン） ㈱インターベット 製造番号：5-25	犬 小型種	雌	2～3月齢	健康	消化管内線虫駆虫薬	消化管内寄生虫駆除済	なし	1ml（1バイアル），皮下注射	平成17年12月10日	なし	平成17年12月10日	ショック，蕁麻疹，アナフィラキシー反応，顔面腫脹，流涎，嘔吐 投与5分後にアナフィラキシーショック．回復過程において嘔吐．1時間後に顔面腫脹，蕁麻疹．	治療	回復
《企業の意見及び対応》 ・担当獣医師：小動物用混合ワクチン製剤において，副作用の発現が非常に多いことに対する何らかの対処が必要と思われる． ・企業：副作用の原因となるアレルギー誘因因子については，①遺伝，②幼若期の食物アレルギー，③ワクチン中の成分の異種蛋白あるいは，④母犬からの伝達等が考えられる．一方，ワクチンの副作用の大部分は，ワクチンの製造工程で使用されているゼラチン等の蛋白質を原因とするアレルギー反応であると考えられるため，輸入先に対しては蛋白量を減少させるよう強く要望している．また，副作用発現時における対応等についてはパンフレット等を作製し，開業獣医師への注意喚起を行っている． ・対応：平成17年12月21日付け事務連絡に従って添付文書を改訂し，3カ月齢以下の幼若な犬に対する投与の際の注意を喚起する．また，今後とも安全性情報及び副作用情報に関しては注意深く情報を収集するよう努める．														

家畜衛生週報（No. 2919）より